

「柏崎の橋」

5 1 寄合橋・新寄合橋（高柳町石黒）

寄合橋は、高柳町石黒字寄合地内、石黒川に架かる橋である。かつて寄合集落は高柳村寄合と石黒村寄合に分かれており、両地区を繋ぐように寄合橋が架けられていた。橋の名は集落名に由来すると推測される。



国土地理院発行 2万5千分の1地形図『石黒』（平成6年発行）を掲載

柏崎市高柳町の南西部に位置する寄合集落は、険しい渓谷を流れる落合川・石黒川が合流する土地であるため、大雨になると川が増水して、橋が流失するなど大きな被害を受けていた。古老の話によれば、かつての寄合橋は現在の橋より少し下流に架かる木橋であり、橋桁の高さも低かったこと



昭和22年木橋竣工
奥に見えるのが松尾神社
『たか柳 想懐』より

から、流されやすかったという。昭和9年の豪雨では高柳村の県道が水に浸かり、岡田の護岸は決壊、寄合橋も流失の被害を受けた。柏崎市街地でも750戸が浸水するほどの甚大な被害を受けている。

古くから石黒から門出へ出るには、城山を越え寄合に出て、そこから釜坂峠を越えていた。その道は幅が狭く、釜坂峠は険しい坂道であったが、門出及び石黒方面の人々の強い要望により、県道に認定された。県道となったものの、車の通行も困難なことから、門出や石黒で道路改良を望む声が高まり、住民運動が盛んに行われた。この運動が実り車道開削工事が昭和24年に開始されると、27年に石黒までの車道全線が開通した。開通式には県知事も来村し、盛大な祝賀式が行われた。また昭和28年6月には石黒村に越後交通バスが運行し、寄合橋もバス路線の一部となった。昭和30年4月に石黒村が高柳村に編入して以降、門出や岡野町への交流も増えていったという。



新寄合橋から下に寄合橋を望む

編入と同じ年、寄合橋は架け替えられ、コンクリート製の永久橋となったが、橋付近は急な坂道とカーブがあり通行の難所であった。そのため、上寄合地内の県道が直線に整備され、平成元年に新寄合橋が完成した。完成に伴い寄合橋は使われなくなったが、山間地域の交通の近代化を支えた橋として、現在もその姿をとどめている。

- 参考にした本
『高柳町史』（224 タカ）高柳町史編集委員会 編
『年表高柳町昭和史』（224 ムラ）村田 徳雄 著
『高柳 わたしたちの町』（224 タカ）
高柳町教員協議会高柳町教育委員会 編
『フナ林の里歳時記』（380イシ）石黒の昔の暮らし編集会 編
柏崎日報 S9.7.12 S30.7.28